

## 地域の希望 ■ 伝統を再発見する重要性

私の所属する東京大学社会学研究所では、「希望の社会科学」という共同研究プロジェクトを行っている。「希望」を単に個人の心の問題として捉えるのではなく、経済・社会状況や法・政治制度などとの関わりにおいて考えることが、その目的

### ウィークリー 時評

宇野 重規

だ。とくにこの一年は、「地域から考える希望」ということで、岩手県釜石市での調査を続けてきた。

ところで釜石とほどのような町であろうか。かつて日本を代表する製鉄の町として知られ、ラグビーチームの活躍でもその名をとどろかせた釜石であるが、現

在では高炉の火が消え、製鉄に代わる新たな町のアイデンティティが模索されている。人口は最盛期の半分以下に減り、高齢化も進んでいる。その意味で、釜石は厳しい状況に置かれた日本の地域社会



釜石で活動するラグビーのクラブチーム「釜石シーウェイブス」。彼らも地域振興に大きく寄与している(昨年10月)＝菅津智昭撮影

の縮図である。いや、企業城下町として繁栄した過去がある分、状況はより厳しいのかもしれない。住民は、いま、自らの手で町の未来を切り開くことを求めら

れている。

ちなみに、新たな町のアイデンティティの模索とは、製鉄に代わる産業育成だけを意味するのではない。若い世代を含む、そこに暮らす人々が今後、釜石という町にどのように関わっていくかが問われているのである。そのため私たちの研究プロジェクトでは、新たな産業振興はもちろん、かつてここで働いた人々の意識やその技能継承、地域の歴史文化の今日、環境問題への取り組みやスポーツを通じての町づくりなどを幅広く調査した。

その結果であるが、調べれば調べるほど、地域の人々がさまざまな新たな取り組みを試み、努力していることがわかった。過去の技術蓄積を活かした新しい製造業、ミネラルウォーターや水産資源の再活用、環境保護と観光の融合など、一つひとつを見れば、新たな「希望の芽」もまかれている。が、しかし、それらが結びつき、地域としての「希望」に結実

するには、まだまだ道のりが遠いということも次第に浮き彫りになっていった。

うつすらとわかってきたのは、外部との接触を通じての地域の伝統の再発見の重要性である。いまや地域の活性化は、地域の外部とのつながりなしにはありえない。ただ、それは何も外からの企業や資金の導入、観光客の誘致だけを意味するのではない。地域の住民がその外に目を向け自ら赴くことで自らの町の特性を知り、他の場所所得た結びつきを活かすことで町の強みやその個性を発展させる方を策を講じることこそが重要なのである。

地域の伝統とは、ただそこにあるものではない。むしろいまを生きる人々が、たえず自分たちの過去のなかから、現在の自分たちにとって大切なものとして再発見していくものこそが伝統である。そのような伝統の再発見こそ地域の希望を見いだせないかと考えている。

(東京大学助教授・政治哲学)